



男の子、女の子

弥生のおつ方、野は菓種の花に黄あつ。  
 酔い暗水、天の、日脚は箱針あつと、春迄今  
 さ車ば、陽表の閃き、暁く、魚えりやあつ、花の香は  
 黄あつ野、花片さへ、水淀ま、風暖くあつて、菓の花あつ  
 黄あつとぬ、花片さへ、水淀ま、風暖くあつて、菓の花あつ  
 小添ひて、潮ゆば、旋て二つ、分ゆさ、水帯のや  
 小添ひて、潮ゆば、旋て二つ、分ゆさ、水帯のや  
 小添ひて、潮ゆば、旋て二つ、分ゆさ、水帯のや  
 十餘、並びぬ。由あ、家、地、桃、奥津域の石  
 友禱の被風着たる十ばりの女の子の新しい奥津域あつ  
 し、茶の上よ、草花数多、摘み集めて、紫雲英、  
 満公英、葉など、草花数多、摘み集めて、紫雲英、  
 紫と、より、よ、束ぬては、そ、奥津域の臺石、透間  
 寸無く並べ、供ありき、その奥津域の臺石、透間  
 無く、あつ、袂、花、椀、更、花、置、  
 添みは、未、路、色、り、ボン、も、て、統、び、下、げ、る、  
 黒、髪、上、

子遊、連、つ、又、連、つ、  
 静、け、さ、を、破、り、て、  
 芝、笛、の、声  
 静、け、さ、を、破、り、て、  
 芝、笛、の、声

凡葉教人



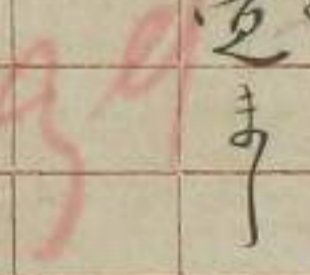
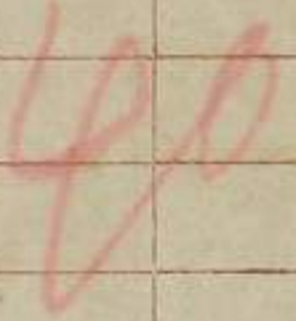






て日毎に愛し来りて  
女の子は何きか  
音を偷めて静に近寄りしが  
喧嘩する音を立てて  
目や道より給へんよと

唄ぐ。男の子誦気よ、そは、何に  
この向へば、彼所の石の下は  
あゝ、と、例の奥津城を指しつ  
あゝ、と、急しく音打掉りて、男の子、馬  
身の母上あゝんあゝんは、思ふよ  
女の子、然あゝ、我身を愛し  
善き母上あゝんあゝんは、極楽  
あゝべし、いあで徳の  
んや、と為有類は、何にぞ。男の子、いと逢は遠き国と  
極楽の国は、何にぞ。男の子、いと逢は遠き国と  
を聞かす、あゝ、は十里餘り、吾、百里ばかりと  
了るべし、我家の祖母、ろそ能く知りぬ。  
末のそこは、かとおく、小や又空想の翅を飛ばせつ、野  
逢ひ極楽の国を憶はて、ぞみりけるが、良あ  
りて、さる遠き国は、我身は行かぬ、我身死せば、色  
の死骸は、行かぬ、あゝ、女は後と  
りて、遊ぶべき支のあゝぬ、徳然を誘わると、我身の好



愛し来りて、遊ばす、鳴らし給へ、我身は、菫角力ふあど、日ぬも

15

ふえう



の花 咲はしきま子 承へる 睡りてあはれ  
りて、 遊ぶべき女のあはれぬ 徒らに 誘われ  
て、 遊ぶべき女のあはれぬ 徒らに 誘われ

40

め了 芝笛を鳴らし給へ。 我身はく 園き 櫻れし 音は 目と  
覚あして、 諸共又 芽花 抜き、 葎角力ふあど、 日ぬも  
奥しく遊び 暮らして、 後、 遊んで 大の影見え 初あは  
未は 再び 芝笛 吹き鳴ら 野の方へ 帰れば  
我身も 花床の下へ 入りて 静に 睡りま 家へ 帰れば  
死よ 給ふ 乃ちよ 志めて 遠く 去る水ぞ。 吾、 汝こそ  
水がよ 訪ふ 水来よ 女の 子の 推返すよ、 いかで、 我  
は 志す、 日毎 泣く 泣く 泣く 泣く 泣く 泣く 泣く 泣く  
佳や 妙あ 音よ 吹き鳴り 宿ま 水と 鳴い 出せり。  
早や 妙あ 音よ 吹き鳴り 宿ま 水と 鳴い 出せり。  
て、 蝶々 舞ひ 舞ひ 舞ひ 舞ひ 舞ひ 舞ひ 舞ひ 舞ひ  
衝は 日ほ やり 西の 山は 傾ま ぬ。 野の 霞遠方  
何れ 時し ぬ 葉よ 志ま へば、 二人 子の 唱ひ 出せり。  
旅て 家路 又 帰り 行く あり。 誰と 尽きて、 例の 川  
の 小道 空を 多く して 先づ 一つ 園より 入相告 ぐる  
音夕 風の色 空を 多く して 先づ 一つ 園より 入相告 ぐる  
あ、 面色 して 漫ろ ば、 今しも 旅日の 餘は 目  
覚あ ぼめ 華や あは 顔 西の 天を 淫め ありて、 一交

4

十

ふえりふ

とて 女の 子な 極よ 更に 樂は あはれ 見給へ、 佛の 居る 園  
の 聲は さま、 と 叫ぶ。 さば、 母上 彼所 なる 庭の 邊に 踏  
とて 女の 子な 極よ 更に 樂は あはれ 見給へ、 佛の 居る 園

極よ 更に 樂は あはれ 見給へ、 佛の 居る 園



早<sup>はや</sup>やも 妙<sup>たぎ</sup>あし 音<sup>ね</sup>よ 葉<sup>は</sup>の 葉<sup>は</sup>の 吹<sup>ふ</sup>き 鳴<sup>な</sup>り せ ば 女<sup>め</sup>の 子<sup>こ</sup>は 節<sup>ふし</sup>を 合<sup>あ</sup>せ  
 て、 蝶<sup>てつ</sup>々々 煙<sup>えん</sup>々々 葉<sup>は</sup>の 葉<sup>は</sup>の 宿<sup>しゆく</sup>ま 水<sup>みづ</sup>の 唱<sup>な</sup>い 出<sup>い</sup>せり。  
 日<sup>ひ</sup>は や しく 西<sup>にし</sup>山<sup>やま</sup>は 傾<sup>かたむ</sup>き ぬ。 野<sup>の</sup>面<sup>めん</sup>の 霞<sup>かすみ</sup>遠<sup>とほ</sup>方<sup>かた</sup>あり  
 衝<sup>つ</sup>つ 又<sup>また</sup> 黄<sup>わう</sup>昏<sup>こん</sup>の色<sup>いろ</sup>と ありて、 日<sup>ひ</sup>ぬ ち 野<sup>の</sup>面<sup>めん</sup>の 霧<sup>きり</sup>遠<sup>とほ</sup>方<sup>かた</sup>あり  
 何<sup>なに</sup>の時<sup>とき</sup>し 小<sup>こ</sup>路<sup>ぢ</sup>の 色<sup>いろ</sup>と ありて、 日<sup>ひ</sup>ぬ ち 野<sup>の</sup>面<sup>めん</sup>の 霧<sup>きり</sup>遠<sup>とほ</sup>方<sup>かた</sup>あり  
 狂<sup>くる</sup>て 家<sup>いえ</sup>路<sup>ぢ</sup>の 色<sup>いろ</sup>と ありて、 日<sup>ひ</sup>ぬ ち 野<sup>の</sup>面<sup>めん</sup>の 霧<sup>きり</sup>遠<sup>とほ</sup>方<sup>かた</sup>あり  
 の 小<sup>こ</sup>道<sup>ぢ</sup>の 色<sup>いろ</sup>と ありて、 日<sup>ひ</sup>ぬ ち 野<sup>の</sup>面<sup>めん</sup>の 霧<sup>きり</sup>遠<sup>とほ</sup>方<sup>かた</sup>あり  
 音<sup>ね</sup>の 夕<sup>ゆふ</sup>風<sup>かぜ</sup>の 色<sup>いろ</sup>と ありて、 日<sup>ひ</sup>ぬ ち 野<sup>の</sup>面<sup>めん</sup>の 霧<sup>きり</sup>遠<sup>とほ</sup>方<sup>かた</sup>あり  
 あ、 面<sup>おも</sup>色<sup>いろ</sup>の 色<sup>いろ</sup>と ありて、 日<sup>ひ</sup>ぬ ち 野<sup>の</sup>面<sup>めん</sup>の 霧<sup>きり</sup>遠<sup>とほ</sup>方<sup>かた</sup>あり  
 覚<sup>さ</sup>る ば、 華<sup>は</sup>や あ、 西<sup>にし</sup>の 天<sup>てん</sup>を 淫<sup>よ</sup>め あして、 餘<sup>あま</sup>は 目<sup>め</sup>

4

中<sup>ちゆう</sup>室<sup>しつ</sup>

喜<sup>き</sup>水<sup>みづ</sup>あめし 野<sup>の</sup>の 黄<sup>わう</sup>も 黄<sup>わう</sup>金<sup>きん</sup>色<sup>いろ</sup>の 輝<sup>かが</sup>き 交<sup>ま</sup>じり  
 彼<sup>か</sup>の 西<sup>にし</sup>の 極<sup>ごく</sup>更<sup>さら</sup>に 樂<sup>がく</sup>は あ、 見<sup>み</sup>給<sup>たま</sup>へ、 佛<sup>ぶつ</sup>の 居<sup>ゐ</sup>る  
 の 聲<sup>こゑ</sup>は 一<sup>ひと</sup>と 叫<sup>こゝろ</sup>ぶの 声<sup>こゑ</sup>は、 女<sup>め</sup>上<sup>の上</sup> 彼<sup>か</sup>の 声<sup>こゑ</sup>は、 佛<sup>ぶつ</sup>の 居<sup>ゐ</sup>る  
 と、 女<sup>め</sup>の 子<sup>こ</sup>は 二人<sup>ふたり</sup>が、 小<sup>こ</sup>さき 手<sup>て</sup>を 揃<sup>そろ</sup>へて 合<sup>あ</sup>掌<sup>しょう</sup>す  
 ば、 男<sup>おとこ</sup>の 子<sup>こ</sup>も 二人<sup>ふたり</sup>が、 小<sup>こ</sup>さき 手<sup>て</sup>を 揃<sup>そろ</sup>へて 合<sup>あ</sup>掌<sup>しょう</sup>す  
 了<sup>りょう</sup>其<sup>その</sup>方<sup>かた</sup>の 夕<sup>ゆふ</sup>の 葉<sup>は</sup>の 山<sup>やま</sup>の 鐘<sup>かね</sup>の 音<sup>ね</sup>は 續<sup>つづ</sup>いて 三<sup>さん</sup>つ 四<sup>し</sup>つ  
 五<sup>ご</sup>つ と 響<sup>ひび</sup>き 来<sup>き</sup>れ、 あ、 けり。  
 (完)

ふえうふ